

ミレニアム開発目標に  
向けての進展

我々の支援は  
飢えている人々のもとに  
届いているのか？

国連世界食糧計画 (WFP) 日本事務所  
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜  
電話 : 045-221-2510  
FAX : 045-221-2511  
ホームページ [www.wfp.or.jp](http://www.wfp.or.jp)

The United Nations World Food Programme  
Communication Division  
For more detailed information visit our Web site:  
[www.wfp.org](http://www.wfp.org)



# 「国際社会は公約の時代から実行の時代に移るときがきた」

——コフィ・アナン国連事務総長

2000年、国連に加盟している189カ国は、8つのミレニアム開発目標を採択しました。最初に掲げられた目標は、2015年までに貧困と飢餓に苦しむ人々の数を半減するというものでした。しかし、3年が経過した現在でも状況はほとんど変わっておらず、言葉を実際の行動に移さない限り、この目標は達成されないまま終わるでしょう。目標達成には、今から2015年までの間、貧困と飢餓にあえぐ人々を毎年2,400万人ずつ減らしていく必要があります。これは、1990年代前半から現在までの実績のほぼ10倍の数に相当します（出典：State of Food Insecurity in the World, FAO 2002）。

国際社会にとって貧困と飢餓は、依然として最も重要、かつ切迫した問題です。政府開発援助（ODA）は、アフリカを筆頭とした後発開発途上国（LDC）を対象に拡充される必要があります。WFPは目標の達成を確実にするため、貧困と飢餓を半減させるために資源をどこに振り向けてきたのか、そして、後発開発途上国に対してより一層の支援を提供するという約束を果たしているのか、という点について考察しました。

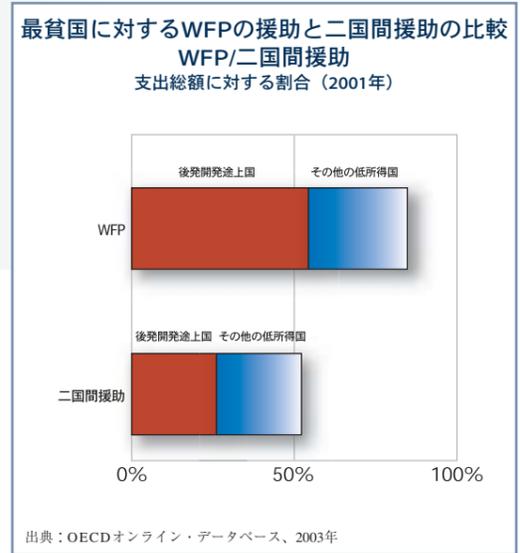
## WFPによる貧しい人々への食糧援助は、どの程度成功を収めているのか？

WFPによる開発援助、中長期的救済・復興支援活動、および緊急援助の実績と、経済協力開発機構（OECD）の開発援助委員会（DAC）が集計したすべての二国間援助の数

字との比較を行いました。対象は、WFPおよびODAの2000年と2001年のデータです（ODAに関しては、2001年のデータが現時点で入手可能な最新の統計です\*）。比較のために使用された国の分類法は国連の後発開発途上国のリストに基づいており、世界銀行による他の国々の所得分類によって補完されています。この比較分析は、OECD/DACと協議して実施されました。

## 最貧国に対する援助

下の棒グラフは、所得レベルによって分類された最貧国に対するWFPとODAの援助の状況を示しています。2001年度には、二国間ODAの52パーセントが後発開発途上国とその他の低所得国に向けられたのに対し、WFPの支出総額の83パーセントがこれらの最貧国を対象としていました。最も貧しい人々が暮らす後発開発途上国に投じられた資源だけを考慮すると、WFPの資金援助の割合は二国間ODAのその2倍に相当しました。この傾向はその後も続き、2002年度のWFPによる後発開発途上国と低所得国に対する支出は、支出総額の81パーセントに達しています。2002年度のODAのデータはまだ集計されていません。\* WFPに寄せられた拠出・寄付が最貧国にいかにか効果的に届いているかを下の図は明確に示しています。

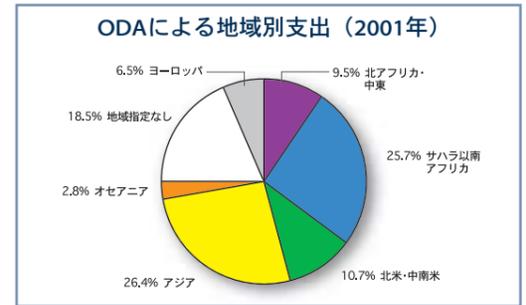
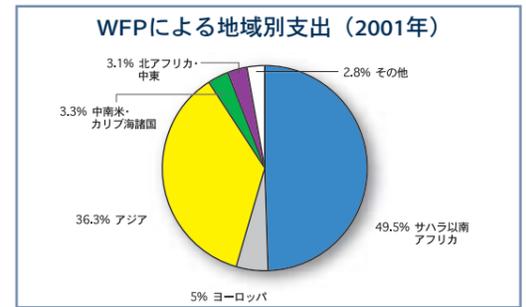


## アフリカ向け援助

49の後発開発途上国のうち34カ国がアフリカにあります。そのため、最貧国に対する援助は、アフリカ、とりわけサハラ以南のアフリカ諸国に対する援助に重点を置く必要があります。2001年には、WFPの支出総額の49.5パーセントがこの地域に対して支出されました。これは、アフリカ向け二国間ODAの割合のおよそ2倍に相当します。2000年と2001年のサハラ以南のアフリカを対象とする二国間ODAは25パーセントに留まっています。

## 後発開発途上国で暮らす 貧しい人々への国連の援助

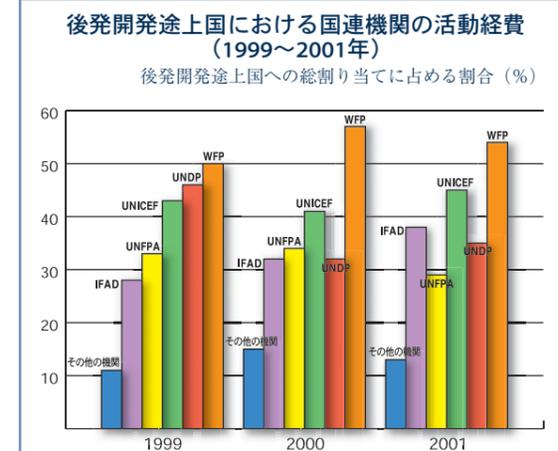
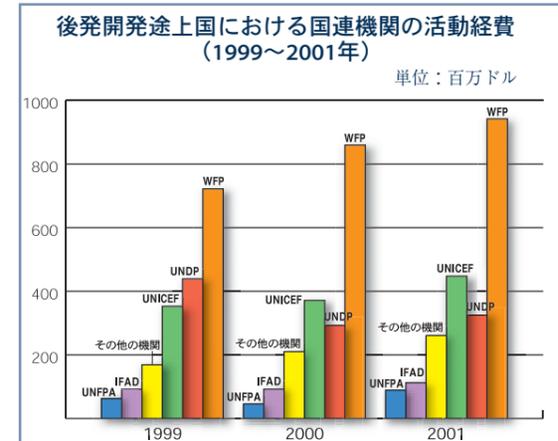
最近、国連経済社会理事会（ECOSOC）から発行された国連事務総長の報告書に、後発開発途上国における国連の活動に関する支出データが掲載されています。下のグラフは、国連開発計画（UNDP）、国連人口基金（UNFPA）、国連児童基金（UNICEF）、国際農業開発基金（IFAD）、国連世界食糧計画



(WFP)、およびその他の専門機関の活動経費を示しています。WFPの支出総額と後発開発途上国に対する支出は、1999年から2001年にかけてそれぞれ着実に増加しており、国連の中で最大規模となっています。他の機関と比較しても、WFPは、その資源の大部分を後発開発途上国に投じています。WFPの後発開発途上国に対する支出の割合は、比較対象期間を通じて常に50パーセント前後を保っています。

## 結論

拡大し続ける世界の貧困と飢餓は、国際社会が直面する最も深刻な問題であり、2000年のミレニアム開発目標への国際社会の強固な関与を喚起しました。しかし、深刻な貧困と飢餓を2015年までに半減するという努力を成功させるためには、最も貧しい人々に対する人道支援と開発援助をさらに重視する必要があります。そのような努力の一環としてWFPは、資源の大半を後発開発途上国、特に最も貧しい人々が暮らすアフリカに割り当てています。この事実、ミレニアム・サミットで採択された目標の実現に向けてWFPが精力的に活動していることを示しています。



出典：Report of the Secretary General on Operational Activities of the United Nations for International Development Cooperation (E/2003/57)  
注：  
- UNDP = 主要プログラム + 運営資金  
- その他の機関 = その他の国連機関の通常予算および予算外支出